

ご 挨拶



和歌山大学長

守 屋 駿 二

21世紀を数年後に控えて、我が国の社会は、国際化・情報化の急激な進展と、科学技術の著しい発達、それに伴う環境問題、地球資源問題と、年々激動し、益々多様化・複雑化の一途を辿っております。その一方では、不良債券問題、昨年末の地元金融機関の業務停止等に見られるように、経済的閉塞状態が数年続き、大きな社会問題になっています。そのため、国を挙げての行政改革、行政基盤の改革が焦眉の急となっていることは、皆様よくご存じのとおりです。いわば現代は、期待に満ち、様々な可能性を秘めた時代である半面、先の見えにくい時代であるともいえます。

時代が求める人材を養成し、学術研究を行うことを使命とする大学としては、こうした社会の変動に無縁というわけにはいきません。常に時代の変化、社会の変革に応じて、というよりは寧ろ先駆となって、教育研究組織の見直しを図っていかねばなりません。と同時に、地域に置かれた国立大学として、地域の経済界・産業界・地方公共団体等との共同研究は不可欠のものです。所謂産官学が一致しなければ激動する現代社会の荒波を乗り切ることはできません。

その意味で、この度本学経済学部、和歌山社会経済研究所及び和歌山商工会議所の三者によって結成された「和歌山地域経済研究機構」はまことに時宜にかなったもので、この研究機構が大学と地域の発展に大いに寄与するものと期待しております。